SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

認知症ケアを契機とした生命倫理学の刷新：新しいケア文化のかたちを求めて

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2021-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 純 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027974

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１３８０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２１１５

研究課題名（和文）認知症ケアを契機とした生命倫理学の刷新―新しいケア文化のかたちを求めて

研究課題名（英文）Innovation of bioethics from the perspective of dementia care. For a new care culture

研究代表者
松田　純（Matsuda, jun）

静岡大学・人文社会科学部・特任教授

研究者番号：３０１２５６７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：徐々に判断力が減退していく過程で認知症の人の自律的な意思を尊重するための倫理的な基礎を明らかにする課題に取り組んだ。認知症の人の自律的意思にそったケアが困難と思われる19のケースを含むケースブックを作成し、倫理的・法的に適切なケアの考え方のポイントをまとめた。自己決定は合理的な判断として狭く理解されるべきではなく、合理的な反省以前の「自然的意思」などを含んで多層的に理解されるべきことを明らかにした。
この分野では、モラルディレンマを含むケースでの多職種協働の倫理研修が重要である。本ケースブックを専門校で使用し倫理問題の理解について調査した結果、倫理的思考力を鍛える上で有効であることが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
米国流生命倫理学では、自律・自立の価値が一面的に強調される傾向がある。これは近代啓蒙主義の人間像に由来するが、この人間像を根底から問い直し、人間が「自由にして依存的存在」であることから、従来の生命倫理学を超える視点を明確にした。本研究は理論研究の深みと具体的ケースとの往復から，「その人らしさ(personhood)」が最期まで尊重される「新しいケアの形」を実践的に示すことで，現場の専門職の努力に理論的な正当化をあたえると期待される。認知症の進行過程においても本人の思いと自律が生活の広い分野で尊重されるような「新しいケア文化」を促進する上で貢献できたと考える。

研究成果の概要（英文）：We studied the task of clarifying the ethical basis for respecting the autonomous will of the dementia person even in the process of gradually declining judgment. And we summarized points of thinking about ethically and legally appropriate dementia-care in a case book with 19 cases in which it seems difficult to care according to the person's autonomous intention. In this book we clarified that self-determination should not be understood narrowly as a rational judgment, but it should be understood at a multi-level including such as "natural will" before rational reflection. In the area of dementia care , collaborative ,multi-professional ethical learning about the cases with moral dilemmas is very important. We used this case book in professional training schools and conducted questionnaire surveys about the understanding of ethical issues. As a result, we were able to confirm the educational effect of this book in building the ethical thinking.

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：認知症　自然的意思　自律尊重　　生命倫理学　　倫理学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

医療倫理における自律尊重の原則は、理性的な判断力をもつ人格を前提にして、判断力のない人に 対しては、恩恵の原則に従って「本人の最善」を考えたケアを基本としてきた。しかしケアの現場で最も悩ましい問題のひとつは、認知症によって徐々に判断力が減退していく過程で、本人の 意思をどこまで尊重できるかということである。この過程のケアについて、現場ではさまざまな 工夫や提言がなされているが、倫理学の側から、本人の意思を尊重したケアの根拠づけはほとんどなされていない。

理性的な判断能力をそなえた人格的主体という前提は西洋近代の啓蒙主義の人間観に由来する。「自律・独立した個人」像は近年ますます重視され、自己責任論が優勢な米国などでは絶対視される傾向すらある。けれども、私たちはまずは無力な赤子として産み落とされ、他者に全面的に依存して成長していく。健康な成人となれば、自律・自立した個人になりうるが、病気や加齢による心身の衰えから、最期は他者に再び全面的に依存して看取られる。人生の最終段階で、人はもはや自律的であることができない。こうした生の実相を見すえるならば、人間は「自由にして依存的な存在」だといえる。

これまでの自律概念の前提を見直し、「自由にして依存的な存在」という両面を見すえ、これまでとは別の形で認知症とつきあう必要がある。認知症の人の能力は、症状の進行や、置かれている環境やその時の体調などによっても、実に多様で、判断能力有り／無しの二分法で 簡単に片づけることはできない。症状の進行過程はときに長期に及ぶが、本人の意思を理解し、本人の意思を可能なかぎり尊重し、「その人らしい生活」を実現するために、ケアの現場では、うなずきや顔をそむけるなどの動作のなかに本人の意思を読み取って、本人の思いにそった支援が模索されている。そのようなケアの模索に対して生命倫理学の側から的確な倫理学的な基礎づけが十分になされているとは言えない。

２．研究の目的

自律尊重原則についての従来の理解を検討し直し、認知症の進行過程においても本人の思いと自律が生活の広い分野で尊重され、自己決定を行使する能力をできるだけ長く保てるような支援をめざし、ケアの専門職の倫理的対応力の向上に理論的な基礎を提示する。

自律尊重の原則の問い直しは、同時に、認知・判断能力の有無によって人間存在の意味が左右される近代啓蒙主義の人間像を問い直すことにもなる。認知症の人の場合、判断能力があったときと、症状が進行して判断能力を失ったかのように見えるときとの間で、その人の人格的同一性が問われることがある。例えば、理性的な判断を有していた時にしたためた事前指示書の内容と、認知症の進行によって明確な意思を確定しにくい状態でのその時々の本人の意向、そのいずれを「本人の意思」とみなすかという問題である。これは哲学的な問題であると同時に、ケアの現場でも極めて深刻な問いである。こうした問題に対して、適切なケアとは何かという実践的な観点とともに、哲学的な深みから理論的に解明する。ドイツの世話法では、理性的に明確な意思に一面化することなく、「自然的な意思」も本人の意思として重視されている。しかし日本の法学界では、自然的意思はほとんど注目されていない。日本の成年後見制度の活用の中においても「自然的な意思」をどのように組み込むことは可能かなどの検討も行う。

３．研究の方法

認知症の人の自律的意思にそったケアが困難と思われるケースをケアの現場から収集し、それらのケースをモデル化し、本人の自律的意思を尊重する対応とその倫理的正当化を多様な専門職の研究協力者とともに検討する。その研究結果をケースブックとして刊行し、倫理的・法的に適切なケアの考え方のポイントを示す。

この分野では、モラルディレンマを含むケースでの多職種協働の倫理研修が重要である。作成されたケースブックを専門校で使用し、倫理問題の理解について調査を行い、倫理的思考力を鍛える上で有効かを検証する。

認知症の人のケアに取り組んでいる医療と介護の専門職や認知症の当事者を招聘し、認知症の人の自律尊重とケアのあり方をめぐって活発な議論を組織する。市民が参加する公開シンポジウムを開催し、検討成果を広めるとともに検証する。

研究成果を日本生命倫理学会など関連学会や、論文、著作などで発表する。

本課題をグローバルな視点からも研究するため、ベトナム、韓国、ドイツなどとの比較研究を行う。

４．研究成果

（１）認知症ケアの現場で発生している困難なケースをモデル化して、倫理的・法的な考え方と対応のポイントをまとめたケースブックを作成し、平成 28 年度末に刊行することができた（『ケースで学ぶ　認知症ケアの倫理と法』南山堂、2017 年３月）。

（２）判断力が低減した人の意思について、その捉え方、意思決定支援のあり方、成年後見制度の活用などの観点から理論的検討を重ねた。このテーマは、社会情勢や学会動向からみて、きわめて重要かつ喫緊の課題であることが一層明らかになった。自己決定を理性的判断に基づく

合理的判断として一義的に狭く理解するのではなく、反省以前の即時的判断や、情動レベルの意思、ドイツ法の「自然的意思」など多層的なレベルで捉え直す必要がある。こうした研究成果を学術論文、学会発表、市民を対象とした啓発的な講演などで発表した。

（3）本課題をグローバルな視点からも研究するため、ドイツから専門家を招聘し、認知症ケアの日独比較について意見交換するとともに、公開講演会を開催し、医療・ケア専門職と情報を共有した。

（4）平成 28 年度末に刊行した『ケースで学ぶ　認知症ケアの倫理と法』を、専門職の養成教育のなかで、学生に対してアンケート調査を実施し、その結果、ケーススタディとグループ討論を通じて、自身の価値観を相対化し、認知症の人への固定観念や偏見を改め、より広く柔軟な視点から問題を捉え直していく上で、ケースブックが有効であることがわかった。この調査結果を論文で発表した。

（5）公開シンポジウムを開催し、臨床倫理学に詳しい医師、認知症の人の社会参加の運動と看護教育に携わる教員、認知症の人のスピリチュアルペインのケアに取り組んでいる専門職を招聘し、認知症の人の自律尊重とケアのあり方をめぐって活発な議論を行った。本シンポジウムには医療と介護の専門職や市民が参加し、認知症の当事者の方からの思いを聴くこともできた。日本認知症ケア学会の「認知症ケア専門士」の単位認定としても位置づけられ、ケアの専門職の倫理的対応力の向上のための理論的な基礎を提供することができた。

（6）認知症ケアを契機とした生命倫理学の再検討を進めるため、研究会を定期的に開催し、自己決定が困難になった認知症の人の代理意思決定者としての家族の役割を研究する専門家、地域で在宅医療に取り組み、思いやりのあるコミュニティを目指す総合診療医、認知症高齢者に寄り添う臨床経験のなかから独自の提言をしている老年医学者を招聘し、認知症の人の自律尊重をめぐって意見交換した。それらの研究成果を日本生命倫理学会大会ワークショップや日本老年薬学会学術大会、著作や論文、講演等で発表した。

（7）高齢化が進む各国に共通する認知症ケアの倫理的・法的課題をグローバルな視点から検討するため、トータルケアをめぐるベトナムと日本、高齢者支援に関する日韓の、それぞれの比較調査を行い、成果を発表した。

（8）これまでの研究を踏まえ、『安楽死・尊厳死の現在　最終段階の医療と自己決定』という書でまとめた。認知症の進行以前に書いた事前指示書を絶対視する立場が必ずしも自律尊重にはならないこと、理性的な判断のみならず自然的意思という多層的な観点から本人の意思に寄り添うことなど、これまでの生命倫理学の固定的な枠を打ち破る観点を提起した。

（9）倫理コンサルテーション、リハビリテーション、介護、成年後見、道徳教授法などの分野でも、研究分担者が、研究プロジェクトの成果を共有しつつ、それぞれ研究成果を取りまとめ社会への発信という点で大きな成果をあげることができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計33件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 松田純	４．巻 5
２．論文標題 なぜいま地域包括ケアか――病院医療の歴史的転換	５．発行年 2020年
３．雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	６．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 青田 安史	４．巻 20(1)
２．論文標題 下肢筋力が低下している高齢者の転倒予防	５．発行年 2019年
３．雑誌名 認知症ケア	６．最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 宮下修一	４．巻 20／2019年後期
２．論文標題 自動車運転中のてんかん発作による事故と家族の運転制止義務　（京都地判平30・9・14）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 民事判例	６．最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 堂囿俊彦，亀田有希子，渡邉達也，氏原淳	４．巻 50(4)
２．論文標題 治験における包括同意の現状と課題	５．発行年 2019年
３．雑誌名 臨床薬理	６．最初と最後の頁 177-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 竹内伸一・鎌塚優子・中村美智太郎	4．巻 51
2．論文標題 ケースメソッドによる道徳教育実践を指揮した一校長に関する研究--リーダーの内面に形成されゆく教育実践基盤をナラティブから取り出す試み	5．発行年 2019年
3．雑誌名 静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）	6．最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青田 安史	4．巻 147（2）
2．論文標題 認知症トータルケア 治療とケア　認知症に対する非薬物的治療の基本　認知症短期集中リハビリテーション	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本医師会雑誌	6．最初と最後の頁 239-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 加藤 隆三，小池 涼太，増田 高茂，青田 安史	4．巻 37
2．論文標題 サービス付き高齢者向け住宅入居者のQOL向上に向けた施策の検討	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡理学療法ジャーナル	6．最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堂囿俊彦	4．巻 69（1）
2．論文標題 ドイツにおける倫理コンサルテーション	5．発行年 2018年
3．雑誌名 人文論集	6．最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10685&item_no=1&page_id=13&block_id=21	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堂囿俊彦	4．巻 23
2．論文標題 人間の尊厳・自律・生命	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国士舘哲学	6．最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村美智太郎	4．巻 69
2．論文標題 連帯可能性としてのリスク・コミュニティへの視座--再帰的近代化と道徳のリスクの問題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡大学教育学部研究報告	6．最初と最後の頁 149-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00026224	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村美智太郎	4．巻 23
2．論文標題 「対話的な学び」を実現する道徳教育	5．発行年 2018年
3．雑誌名 TEADA	6．最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青田安史、天野ゆかり、松田純	4．巻 5（1）
2．論文標題 コ・メディカル養成課程における事例に基づく倫理トレーニングの学びの構造と特色――テキストマイニングによる自由記述の解析から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 常葉大学健康科学部研究論集	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堂囿 俊彦	4．巻 27(1)
2．論文標題 人間の尊厳・福祉・ケア	5．発行年 2017年
3．雑誌名 生命倫理	6．最初と最後の頁 55-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堂囿 俊彦	4．巻 60
2．論文標題 「個人の尊重」と「人間の尊厳」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 哲学誌	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青田 安史	4．巻 18（2）
2．論文標題 認知症短期集中リハビリテーションのおさらい	5．発行年 2017年
3．雑誌名 認知症介護	6．最初と最後の頁 54-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 比留間洋一、天野ゆかり	4．巻 18
2．論文標題 ベトナムの高齢者リハビリテーションの外観	5．発行年 2018年
3．雑誌名 星城大学研究紀要	6．最初と最後の頁 44-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 天野ゆかり、比留間洋一	4．巻 20(4)
2．論文標題 EPAベトナム人介護福祉士候補者から見た日本の介護――看護人材が介護を学ぶとき	5．発行年 2018年
3．雑誌名 地域ケアリング	6．最初と最後の頁 81-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松田純	4．巻 86(5)
2．論文標題 新しい健康概念とロボット工学	5．発行年 2017年
3．雑誌名 神経内科	6．最初と最後の頁 81-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大瀧綾乃、中村美智太郎、藤井基貴	4．巻 28
2．論文標題 教員のICT活用指導力の向上に関する考察 外国語教育におけるE-ラーニング導入の課題と可能性	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡大学教育実践総合センター	6．最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi/10.14945/00024660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井郷平、田中奈津子、中村美智太郎	4．巻 28
2．論文標題 内容項目に基づく『道徳意識』に関する検討――教員養成段階の大学生に対する調査	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡大学教育実践総合センター	6．最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi/10.14945/00024659	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村美智太郎、鎌塚優子、上野博史	4．巻 28
2．論文標題 道徳教育における現代的課題に対応したケース開発と実践の検討	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡大学教育実践総合センター	6．最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi/10.14945/00024658	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松田純	4．巻 1114
2．論文標題 尊厳死と安楽死――「死ぬ権利」の法制化は「尊厳ある最期」を保障できるか	5．発行年 2017年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 74-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松田純	4．巻 II
2．論文標題 医療・介護・保健分野におけるビッグデータの活用と患者の権利 ――モノのインターネット（IoT）の先にあるもの	5．発行年 2016年
3．雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6．最初と最後の頁 33-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松田純	4．巻 51-1
2．論文標題 理学療法の倫理	5．発行年 2017年
3．雑誌名 理学療法ジャーナル	6．最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堂囿 俊彦	4．巻 26(1)
2．論文標題 「人間の尊厳」と討議	5．発行年 2016年
3．雑誌名 生命倫理	6．最初と最後の頁 26-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堂囿 俊彦	4．巻 33
2．論文標題 子の福祉と医療	5．発行年 2016年
3．雑誌名 文化と哲学	6．最初と最後の頁 73-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村美智太郎・藤井基貴	4．巻 48
2．論文標題 道徳教育における内容項目「自由」「自律」に関する基礎的研究	5．発行年 2017年
3．雑誌名 静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）	6．最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 天野ゆかり、比留間洋一	4．巻 30
2．論文標題 ベトナム高齢者施策の進捗状況：ダナン市の事例	5．発行年 2016年
3．雑誌名 静岡県立大学短期大学部研究紀要	6．最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 比留間洋一・天野ゆかり	4．巻 30
2．論文標題 介護業界が求める人材、学生が働きたいと思う介護現場とは？	5．発行年 2017年
3．雑誌名 静岡発！外国人と共に変化していく介護業界の現在　――ふじのくにEPAネットワークの取組	6．最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青田安史	4．巻 33
2．論文標題 生活期リハビリテーションにおける要介護高齢者に対する自立支援と自己決定―理学療法士の視点から―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 静岡理学療法ジャーナル	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青田安史，平野幸伸、内田全城	4．巻 17
2．論文標題 早期離床に向けたリハビリテーションの実際	5．発行年 2016年
3．雑誌名 認知症介護	6．最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮下修一	4．巻 88-12
2．論文標題 合理的な判断をすることができない事情を利用した契約の締結	5．発行年 2016年
3．雑誌名 法律時報	6．最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮下修一	4．巻 270
2．論文標題 遺産分割協議・相続放棄と詐害行為取消権・再考	5．発行年 2017年
3．雑誌名 名古屋大学法政論集	6．最初と最後の頁 281-298
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/nujlp.270.17	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計40件（うち招待講演　25件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 松田純
2．発表標題 在宅で療養する高齢者に対する医療とケアの倫理
3．学会等名 第3回日本老年薬学会学術大会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 宮下修一
2．発表標題 高齢者在宅医療・介護における法的問題
3．学会等名 第3回日本老年薬学会学術大会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 松田純
2．発表標題 薬学・多職種連携教育で使える生命倫理・医療倫理の事例を作ろう！
3．学会等名 第4回日本薬学教育学（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 人生の最終段階の医療をめぐってーー日本とドイツの比較的考察
３．学会等名 シンポジウム　終末期医療、安楽死・尊厳死に関する総合的研究（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 健康，自律概念をとらえ直した２１世紀型医療の目標
３．学会等名 2019年度日本医師会生涯教育講座（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 堂囿俊彦
２．発表標題 患者の尊厳に着目した倫理コンサルテーションモデルの検討
３．学会等名 第31回 日本生命倫理学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 堂囿俊彦，三浦靖彦,神谷恵子，竹下啓，長尾式子
２．発表標題 公立福生病院における透析治療の不開始・中止を考える
３．学会等名 第31回 日本生命倫理学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 天野ゆかり
２．発表標題 EPA介護福祉士の国家試験合格率に関する分析ーベトナム人合格者の語りから
３．学会等名 第26回日本介護福祉教育学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 青田 安史
２．発表標題 地域のみんなで健康でいよう
３．学会等名 認知症予防講演会
４．発表年 2019年

１．発表者名 松田純，堂囿俊彦，天野ゆかり，三浦靖彦
２．発表標題 尊厳ある人生の最終段階はどのようにして実現できるのか
３．学会等名 第30回日本生命倫理学会年次大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 堂囿俊彦
２．発表標題 有機体と価値
３．学会等名 第30回日本生命倫理学会年次大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 天野ゆかり
２．発表標題 介護福祉士養成施設における留学生受け入れの課題―EPA介護福祉士のインタビューから得られた示唆
３．学会等名 日本介護福祉教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 在宅医療における倫理的な問題点を考える
３．学会等名 平成30年度在宅患者に対応可能な薬剤師の人材育成業務　在宅医療研修会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 医療と倫理　　精神科医療の倫理
３．学会等名 静岡県立こころの医療センター倫理研修会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 人生の最終段階における医療をめぐって　アドバンス・ケア・プランニングの意義
３．学会等名 榛原総合病院倫理研修会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 安楽死と尊厳死の現在　　人生の最終段階の医療をめぐって
３．学会等名 ケアの人間学合同研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 青田 安史
２．発表標題 自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現について
３．学会等名 焼津市地域ケアマネ研修（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 青田 安史
２．発表標題 リハビリテーション及び福祉用具の活用が必要な事例への対応について
３．学会等名 静岡県主任介護専門員更新研修（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宮下 修一
２．発表標題 日本における任意後見制度の現状と利用の活性化に向けた方策の検討
３．学会等名 韓国民事法学会国際シンポジウム「高齢化社会と民事法の対応」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 天野ゆかり
２．発表標題 日本における介護のあゆみとその実践
３．学会等名 日中高齢化対策戦略プロジェクト（中国国家民政部、日本国際協力機構主催）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 天野ゆかり
２．発表標題 老いゆく中国社会ー少子高齢化の現状と課題、日中協力の可能性
３．学会等名 アジアの介護人材養成と課題、中国社会保障制度研究報告会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中村美智太郎
２．発表標題 近代における「遊戯」の再考
３．学会等名 東京唯物論研究会4月定例研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中村美智太郎
２．発表標題 道徳教育へのケースメソッド教授法の活用
３．学会等名 平成29･30年度静岡県教育委員会・三島市教育委員会指定人権教育研究発表会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 堂囿 俊彦
２．発表標題 人間の尊厳・福祉・ケア
３．学会等名 第41回東京都立大学哲学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 現代医療倫理を見直す――自律・自立と依存の関係から
３．学会等名 全国国立病院院長協議会関東信越支部勉強会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤隆三，青田安史，増田高茂，小池涼太
２．発表標題 サービス付き高齢者住居者のＱＯＬ向上に向けた施策の検討
３．学会等名 第33回東海北陸理学療法学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 新しい健康概念とつながりの大切さ
３．学会等名 第22回 静岡健康・長寿学術フォーラム静岡健康・長寿学術フォーラム（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 新しい健康概念とリハビリテーションの倫理
３．学会等名 日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育研修会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 堂囿 俊彦，亀田 有希子，渡邉 達也，氏原 淳
２．発表標題 治験における包括同意の現状と課題
３．学会等名 第38回日本臨床薬理学会学術総会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 宮下修一
２．発表標題 消費者法と高齢者法の関係―「消費者」としての「高齢者」への「支援」のあり方
３．学会等名 韓国・中央法学会シンポジウム「高齢化社会と高齢者の消費者主権」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 宮下修一
２．発表標題 名義貸しクレジット事件最高裁判決の意義と射程
３．学会等名 第19回リース被害全国協議会基調講演（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Jun Matsuda
２．発表標題 Ethical, Legal and Social Issues of Big data and IoT in medicine and healthcare
３．学会等名 ドイツ学術交流会DAAD　東アジア会議「第四回ライフサイエ ンス・シンポジウム」 工学、医学、自然科学におけるライフサイクル・マネジメント（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 ロボットスーツＨＡＬ開発研究の倫理的意義――新しい健康概念に照らして
３．学会等名 第53回医学系大学倫理委員会連絡会議（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 尊厳死と安楽死 ―― 「死ぬ権利」の法制化は「尊厳ある最期」を保障できるか
３．学会等名 一橋大学政策フォーラム（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 世界はどう変わるか――ＡＩ，医療におけるビッグデータ、ＩｏＴ（モノのインターネット）
３．学会等名 静岡大学公開講演会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 松田純
２．発表標題 病気を持っていても元気だといえる人生
３．学会等名 オレンジカフェ（認知症カフェ）（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 堂囿 俊彦
２．発表標題 福祉と尊厳
３．学会等名 第28回日本生命倫理学会　2016年12月4日
４．発表年 2016年

１．発表者名 天野ゆかり
２．発表標題 終末期におけるケア～安楽な姿勢から見えてくるもの～
３．学会等名 第4回全国介護・終末期リハ・ケア研究会研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 天野ゆかり
２．発表標題 技能実習制度によるベトナム人介護人材の戦略的受入に関する基礎研究
３．学会等名 平成28年度全国老人福祉施設研究会議　長崎会議
４．発表年 2017年

１．発表者名 天野ゆかり
２．発表標題 高齢者の褥瘡・拘縮予防のケア
３．学会等名 ズイタン大学看護学部　日本介護セミナー（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計15件

１．著者名 松田純／　加藤泰史・小島毅編	４．発行年 2020年
２．出版社 法政大学出版局	５．総ページ数 456
３．書名 尊厳と社会（上）	

１．著者名 松田純／　盛永審一郎・松島　哲久・小出泰士編	４．発行年 2019年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 338
３．書名 いまを生きるための倫理学	

１．著者名 堂囿俊彦／　有田悦子・足立智孝編	４．発行年 2020年
２．出版社 南江堂	５．総ページ数 274
３．書名 薬学人のための事例で学ぶ倫理学	

1．著者名 堂囿俊彦／　後藤惠子，有田悦子，井手口直子（編）	4．発行年 2019年
2．出版社 羊土社	5．総ページ数 276
3．書名 薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム 改訂版	

1．著者名 中村美智太郎	4．発行年 2019年
2．出版社 学校図書	5．総ページ数 CD-ROM 1 + DVD-ROM 2
3．書名 中学校道徳「輝け未来」指導書（DVD-ROM版）	

1．著者名 松尾直博・赤坂真二・石丸憲一・内田卓雄・鎌塚優子・菅昭男・中村美智太郎・松本多加志	4．発行年 2019年
2．出版社 学校図書	5．総ページ数 CD-ROM 1 + DVD-ROM 2
3．書名 輝け未来　中学校道徳　教師用指導書（DVD-ROM版）	

1．著者名 松田純	4．発行年 2018年
2．出版社 中公新書	5．総ページ数 244
3．書名 安楽死と尊厳死の現在　最終段階の医療と自己決定	

１．著者名 堂囿俊彦、竹下啓、神谷惠子、長尾式子、三浦靖彦	４．発行年 2019年
２．出版社 医歯薬出版株式会社	５．総ページ数 132
３．書名 倫理コンサルテーション ハンドブック	

１．著者名 中村美智太郎・鎌塚優子・竹内伸一・岡田加奈子（共編著）	４．発行年 2018年
２．出版社 学事出版	５．総ページ数 127
３．書名 とことん考え話し合う道徳　ケースメソッド教育実践入門	

１．著者名 堂囿 俊彦、赤林朗、児玉聡	４．発行年 2018年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 312
３．書名 入門・倫理学	

１．著者名 天野ゆかり、宮崎里司、西郡仁朗、上村初美、野村愛	４．発行年 2018年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 291
３．書名 外国人看護・介護人材とサスティナビリティ　持続可能な移民社会と言語政策	

1．著者名 宮下修一、加藤新太郎、太田勝造、大塚直、田高寛貴	4．発行年 2018年
2．出版社 信山社	5．総ページ数 880
3．書名 21世紀民事法学の挑戦 ― 加藤雅信先生古稀記念　下巻	

1．著者名 松田純、堂囿俊彦、青田安史、天野ゆかり、宮下修一、中村美智太郎、中島孝、飛永雅信、古田 精一、神馬幸一、加藤尚武、奥山惠理子、相澤出、日笠晴香、石垣泰則、大塚芳子、大塚芳正、上藤美紀代、髙井由美子、小島孝子、水嶋久美子、南山浩二、大出順、上久保真理子、諸岡了介	4．発行年 2017年
2．出版社 南山堂	5．総ページ数 173（i-xiv,1-159)
3．書名 ケースで学ぶ　認知症ケアの倫理と法	

1．著者名 堂囿 俊彦／　赤林朗編	4．発行年 2017年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 412
3．書名 入門・医療倫理〔改訂版〕	

1．著者名 宮下修一・松本恒雄・後藤巻則	4．発行年 2017年
2．出版社 商事法務	5．総ページ数 288
3．書名 消費者法判例インデックス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

松田純
http://life-care.hss.shizuoka.ac.jp/
http://life-care.hss.shizuoka.ac.jp/index.php

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	堂囿　俊彦 (Duzono Toshihiko) (90396705)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	中村　美智太郎 (Nakamura Michitaro) (20725189)	静岡大学・教育学部・准教授 (13801)	
研究分担者	宮下　修一 (Miyashita syuichi) (80377712)	中央大学・法務研究科・教授 (32641)	
研究分担者	青田　安史 (Aota yasushi) (90551424)	常葉大学・健康科学部・教授 (33801)	
研究分担者	天野　ゆかり (Amano Yukari) (60469484)	静岡県立大学短期大学部・短期大学部・講師 (43807)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	加藤　尚武 (Kato Hisatake)		
研究協力者	中島　孝 (Nakajima Takashi)		
研究協力者	古田　精一 (Furuta Seiichi)		
研究協力者	相澤　出 (Aizawa izuru)		
研究協力者	飛永　雅信 (Tobinaga Masanobu)		
研究協力者	神馬　幸一 (Jinba Koichi)		
研究協力者	日笠　晴香 (Hikasa Haruka)		
研究協力者	奥山　恵理子 (Okuyama Eriko)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	小島　孝子 (Kojima Takako)		
研究協力者	高井　由美子 (Takai Yumiko)		
研究協力者	上藤　美紀代 (Uefuji Mikiyo)		
研究協力者	大塚　芳子 (Otsua Yoshiko)		
研究協力者	水嶋　久美子 (Mizushima Kumiko)		
研究協力者	大出　順 (Ode Jun)		
研究協力者	上久保　真理子 (Kamikubo Mariko)		
研究協力者	石垣　泰則 (Ishigaki Yasunori)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	大塚　芳正 (Otsuka Yoshimasa)		
研究協力者	南山　浩二 (Minamiyama Koji)		
研究協力者	諸岡　了介 (Morooka Ryosuke)		